



# 日耳鼻医会 FAXニュース

平成27年9月4日発行 第230号

## ◎第14回日本臨床分科医会 代表者会議 開催される

8月27日(木)午後3時から日耳鼻医会事務所で、上記会議が日本眼科医会、日本臨床外科学会、日本産婦人科医会、日本小児科医会、日本臨床整形外科学会、日本精神神経科診療所協会、日本臨床内科医会、日本臨床泌尿器科医会、日本臨床皮膚科医会、日本放射線科専門医会、日本耳鼻咽喉科医会の11団体と日本医師会から小森常任理事が参加して開催された(日本臨床脳神経外科協会は欠席)。

日耳鼻医会伊東理事長の開会挨拶の後、小森常任理事から「インフルエンザワクチンがA型2株、B型1株の3価からB型も2株の4価となり、良いことだが希望小売価格が大幅に上がったので、日医として製造販売4社には適正な価格設定、品質管理、安定供給の3点について要望したいと考えている。日本臨床整形外科学会から提出の医療類似行為の議題に関しては、病医院以外は本来は急性期疾患でなければ保険請求できないにも拘わらず、実態はそれと大変かけ離れていることは日医も把握しているので中医協でも議論されるべきと思う。」等の挨拶があり、その後協議に入った。概要は以下の通り。

- 1) 学校健診について(日本臨床整形外科学会)  
運動器に関する健診が実施されることになった。方法としてはアンケート方式が考えられている。
- 2) 医療類似行為について(日本臨床整形外科学会)  
医療保険(療養費)の支給対象となるあん摩、マッサージ等は、骨折や脱臼などの急性疾患が対象で、慢性疾患は対象となっていない。医師の同意書も必要であるが、同意書作成に当たって、医師もこのことを良く理解せず同意書を作成しているようであるので、十分理解して同意書を書いて欲しい。
- 3) 認知症に対する各科の取り組み(日耳鼻医会)  
高齢者の半数近くに難聴があり、難聴は認知症のリスクファクターである。より早期からの補聴器の装用が望まれるが、先進他国に比べて補聴器の所有率が低い。耳鼻科として「認知症の危険因子としての難聴」を啓蒙し、より早期からの装用を勧めていきたい。

以上3議題に対して各団体より意見が出された。議題2では、資料の他にポスターと「ポスター内容に関する補足説明の冊子(医師用)」、「医師のための保険診療基礎知識－医療類似行為関連Q&A」が配られた。また日本放射線科専門医会より、医師以外(整骨院)からの画像診断依頼があることや海外への遠隔画像診断依頼があるという話題提供があった。議題3では、難聴と認知症の関係について初めて聞く話で勉強になったとの発言が多かった。会議の後、会場を移して懇親会が開かれた。次回第15回日本臨床分科医会代表者会議は平成28年1月28日(木)日本医師会館で開催予定。

## ■第6の味覚「脂味」が存在 新味覚名「オレオガスタス(oleogustus)」 日本語では脂味(あぶらみ)になりそう

米パデュー大学の研究者は7月23日、甘味、塩味、酸味、苦味、うま味に続く第6の味覚として、脂味(脂肪味)のあることを実験で確認したと発表した。

パデュー大学・栄養学科の研究で、論文誌ケミカルセンスに掲載された。脂肪を味覚として感じる機能があるかどうかという問題はこしばらく食品研究分野での研究課題となっており、食感と味覚を区別することが難しいとされている。

調査では、脂肪酸と他の5味の化合物を混合した溶液を用い、102の参加者に対して知覚テストを実施。溶液の匂いや食感に関しては同一になるようにしたが、多くの参加者は他の味と脂肪酸の有無を区別できたという。また、脂肪酸は炭素数の長さによっても他の味覚に与える影響は異なることが分かった。

調査結果として、脂肪酸の有無はうま味と同様に他の味覚と組み合わせによって味を左右するものと解釈しているのだが単一の味覚として知覚されるものかどうかは言及されていない。研究者は、油を意味する「オレオ(Oleo)」と味覚を意味するラテン語の「ガスタス(Gustus)」と組み合わせ、新しい味覚を「オレオガスタス(oleogustus)」と呼ぶことを提案している。

## ■血液、唾液の検査で頭頸部がんの 早期発見が可能に

頭頸部がん患者の血液・唾液中に含まれる腫瘍由来のDNAが発見されたと、米ジョンズ・ホプキンス大学の研究グループが報告した。研究を率いた耳鼻咽喉・頭頸部外科准教授のNishant Agrawal氏は、「腫瘍DNAはスクリーニング、早期発見、治療時のモニタリングおよび治療後の経過観察に利用できる可能性がある」と、近い将来には非侵襲的な癌検査が実現するとの見通しを示した。

Agrawal氏によると、今回の研究は予備的なものであり、検査の性能を向上させて的確な適応症を定めるには、さらに大規模な研究を実施する必要があるという。目標は、頭頸部がんの残留や再発の監視のほか、一般集団またはハイリスク集団の頭頸部がんスクリーニングにもこの検査を利用できるようにすることだと、同氏は付け加えている。

今回の研究では、頭頸部がんと新たに診断されたか、再発した患者93人の唾液を採取し、47人からは血液も採取した。71人(76%)の唾液検体および41人(87%)の血液検体に腫瘍DNAが見つかった。血液と唾液の両方を採取した47人のうち45人で、少なくともいずれかの体液中に腫瘍DNAを特定できた。

具体的には、頭頸部がんの増加の原因となっているHPVの痕跡を調べたほか、HPVに無関係のがんについては、特定のがん関連遺伝子の変異を調べた。結果を分析すると、唾液検査は口腔がん、血液検査は喉のがんの発見に優れていた。2つを併用すれば、がんがどこにあって発見することができるAgrawal氏は述べている。この検査の費用は数百ドルになると予想されるが、同氏は50ドル未満が理想だとしている。

KYOWA KIRIN



アレルギー性疾患治療剤 (薬価基準収載)  
**アロック® OD錠2.5・5**  
錠2.5・5  
ALLELOCK® OD Tablets・Tablets・Granules 0.5% 顆粒 0.5%  
オロパタジン塩酸塩口腔内崩壊錠・オロパタジン塩酸塩錠  
オロパタジン塩酸塩顆粒

「効能・効果」、「用法・用量」、  
「用法・用量に関連する使用上の  
注意」、「禁忌を含む使用上の  
注意」等は製品添付文書を  
ご参照ください。

製造販売元 (資料請求先)  
**協和発酵キリン株式会社**  
東京都千代田区大手町一丁目6番1号 〒100-8185  
www.kksmile.com

2013年5月作成 ©登録商標

発行 (特)日本耳鼻咽喉科医会  
〒104-0031東京都中央区京橋2-11-8全医協連会館5F  
TEL(03)5524-5230 FAX(03)5524-5228  
HP: http://www.jenti.or.jp E-mail jimujenti.or.jp

◎これからの会議予定  
9月13日 第3回全理事会  
11月29日 第4回全理事会並びに  
平成27年度医会長協議会